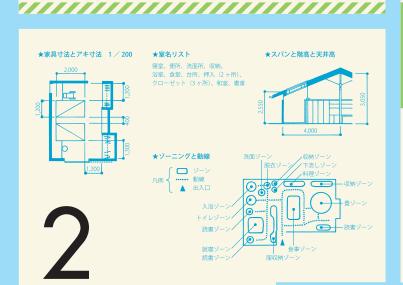
家具から 発想する 建築計画

宫宇地一彦

彰国社



室の大きさ アキ寸法 フーンの規模 A A 4 + 5 c + d + e

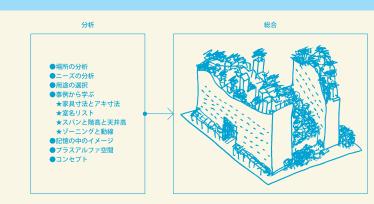
1

発想は 家具から

家具 →ゾーン → 室 → 平面 → 建築 → 複合建築!

事例から 学ぶ

20の ビルタイプを 収録◎ 事例分析も 計画のうち!



分析から総合へ

日常性を維持しつつ 創造性を発揮する!

家具から 発想する 建築計画

宮宇地一彦

彰国社

著者 宮宇地一彦(宮宇地一彦建築研究所 所長)

曽根里子(文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科 助教) 伏見 建(建築環境・設備研究所 所長) 編集協力

装幀・本文デザイン 髙橋克治 (eats & crafts)

目次 第1章 発想は家具から

家具のまわりにゾーンは生まれる	8
ゾーンの規模づくり	10
ゾーンから室へ	12
複合ゾーンの室	14
室から平面へ	16
平面から立体へ	18
動線・シークエンス	20
廊下・通路・階段・スロープの寸法	22
	26
	28
	40
	48
	60
	72
	78
	90
	92
	94
博物館・アートギャラリー	96
	102
]]/
複合建築	152
3章 分析から総合へ	
建築づくりの進め方	158
イメージ記憶をためておく	160
アイデアをためておく	162
場所とニーズの分析訓練をしておく	164
家をつくろ	166
複合建築の提案例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	複合ゾーンの室

まえがき

私が、女子大学の建築デザインコース(当時)で教鞭をとっていた頃のことです。その学科は、前身である「家政学部・インテリア専攻」の雰囲気が色濃く漂っていました。あるとき、工学部出身の私は、学生の発想に対して内心驚くと同時に、感動したことがあります。設計課題の提出日のことです。模型の家具はびっしり細かくつくられているのに、屋根がつくられていないのです。「時間がなかった」というのが理由でした。私の学んだ工学部の建築学科では、外観はしっかりつくり、時間があったら家具の模型をつくるといった順序が普通だったので、よく覚えています。

このことは、どちらも、最後にすべてを完成させておけば同じに見えますが、明らかに違っているのが「考える道筋=論理」です。「先」に何を考えて「後」で何を考えるかは、まるで逆といってもいいでしょう。

このような発想の違いの経験がヒントになって、『家具から発想する建築計画』を 書こうと思い至りました。

「計画 (planning)」という用語と、「設計 (design)」という用語は、同じ意味で使われることもあり、また、違う意味で使われることもある、なかなかやっかいな言葉です。

「計画=プランニング」の語源は、「プラン (plan) = 平面」からきており、日本の「間取り」に近い言葉と考えていいでしょう。「間取りを考える」、すなわち、毎日の生活や業務などに必要な「平面づくり」を考えたあと、各階の平面を、1階、2階……最上階と重ねていくと、「建築の全体像」が見えてきます。「計画」という言葉は、平面計画、立面計画、断面計画などのように様々な使い方がされますが、この本では、特に「平面計画=平面づくり」を重視して、建築全体の計画にまでもっていくにはどうしたらいいかを扱っています。

一方、「設計 (design)」には、「存在の前に」、あるいは、「まだ現れないものを見る」といった創造的な意味合いが含まれています。日本の創意工夫によって生み出される「意匠」に近い言葉と考えていいでしょう。「形や空間づくり」では豊かな発想力は欠かせません。

「計画と設計」は、別々に考えるのではなく、本来は一緒に考えていくべきものです。 両者を一緒に考えていくことを、この本では「**建築づくり**」という言葉で表しています。 まとめると、次のようになります。

- ■計画とは、主に平面づくりを考えること
- ■設計とは、主に形と空間づくりを考えること
- ■建築づくりとは、計画と設計を一緒に考えること

「建築づくり」を開始してよく問題になるのが、「形と空間づくり」のための「イメージスケッチ」は増えていくのに、「平面づくり」のための「平面スケッチ」は一向に増えていかないという事態です。もちろん、この反対の事態に陥ることもよく起こります。 学生時代の設計課題や卒業制作で、あるいは、実務での最初のプロジェクトで、このような事態に直面したことを思い出す人は多いかもしれません。

また、「建築づくり」を始めるといっても、手をつける範囲が広くて「どこから始めていいか分からない」ということはよく起こります。建築づくりの進め方には、大きく分けて2つあります。建築の「全体」から始める方法と「部分」から始める方法です。

「全体から始める」とは、例えば、建築全体の、容積率、建蔽率、斜線制限など を検討して大枠を決め、コンセプトを決め、それから、各階の平面、室の構成、家 具配置へと進めていく方法です。

「部分から始める」とは、コンセプトを決め、その用途に必要な家具を選び、ゾーンの規模や室の大きさを決め、各階の平面、容積率、建蔽率、斜線制限などを検討しながら、建築全体へとまとめていく方法です。どちらも、建築づくりが終わるまでに、すべての要求条件をクリアしておけば、結果としては同じです。違うのは「どこから考え始めるか」です。

この本では、『家具から発想する建築計画』というタイトルの通り、家具から考え始めて、建築全体をつくるに至るにはどうしたらいいかを扱っています。さらに、現代建築の傾向となっている「複合建築」についても扱っています。この本で、皆さんにおすすめしたい建築づくりの「順序」は、次の通りです。

■家具→ゾーン→室→平面→建築→複合建築→敷地

建築づくりには、構造、法規、材料、設備などたくさんの専門的な知識が必要です。設計課題や卒業制作で、あるいは、実務についての最初のプロジェクトで「第1案」をつくり上げるためには「これだけは知っておくべき」とされる「基礎知識」をこの本では扱っています。また、1級、2級建築士の資格を目指している人たちにとっては、「建築計画」に関する分かりやすい解説書となるようまとめました。

19

6 平面から立体へ

1. 室の平面を立体化する

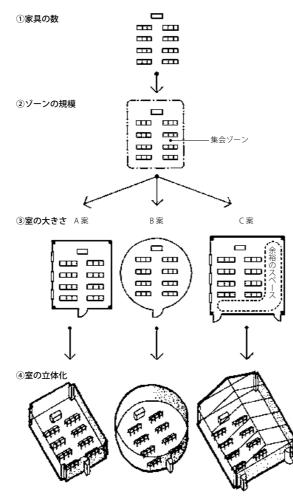
1.1つのゾーンに限定した室の立体化

「1つのゾーン」を「1つの室」に限定してつくる例として、トイレ、あるいは、講義専用の研修室などがあります。そのような場合は、たいてい「1種類の家具」か「1組の家具」で構成されています。ここでは、例として「研修室」を挙げ、「1つのゾーンに限定した室」の「立体化」を試みます。まず、①研修者用の「椅子の数」を決めます。②「家具寸法・アキ寸法・通路の幅」を足し算し、研修に最小限必要な「ゾーンの規模」を決めます。③「室の大きさ」は、ゾーンの「規模ぎりぎり」で決める場合と、ゾーンの規模に「余裕のスペース」を加えて決める場合があります。④最後に、天井の「高さと形」を決めて「室の立体化」を行います。

2. 複合ゾーンの室の立体化

「複数のゾーン」が集められて「1つの室」としてつくられた室のことを、ここでは、「複合ゾーンの室」と呼んでいます。身近な例としては、住宅のリビング・ダイニング・キッチンの「3つのゾーン」を集めてつくった「LDKの室」を挙げることができます。ここでは、小学校の「教室」を例に、「複合ゾーンの室」のつくり方を説明しておきます。以前は、「1学級のゾーン」が「1つの教室」としてつくられていました。現在は、「複数の学級ゾーン」と「オープンスペース(多目的スペース)」を半開きの状態でつなげて、全体として、ひとまわり大きな「複合ゾーンの室」としてつくられています。

図表 1 ゾーン限定の室の立体化(例:研修室)



③室の立体化

図表 2 複合ゾーンの室の立体化 (例: 小学校の教室) ①家具の数とゾーンの規模

(学級ゾーン オープンスペースゾーン ·o**II** 50 50 lΠ aa aa aa a ₩. 50 EE 66 クワイエッ 111 1 F X.i 881111 88 88 教師 🖵 ت ت 88 88 _ 222 222 88 \setminus \Box ш ш √₽ 普诵教室 学級ゾーン

②室の大きさ

2. 各階の平面を重ねて立体化する

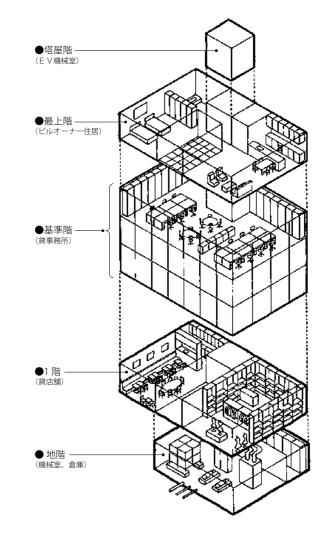
1. 地階・1階・基準階・最上階・塔屋階

建物の基本は、平屋(1階建て)ですが、中高層では「各 階の機能配分」が建築づくりの大きなテーマになります。 各階は、一般に、「5つの領域」に分けられます(図表3)。 特に注目すべきは「基準階」です。基準階には、各用途の「主 役の室」が配置されます。例えば、集合住宅では住戸の「居 間や寝室」、オフィスビルでは「事務室」、店舗では「売り 場」、ホテルでは「客室」、病院では「病室」、高齢者施設 では「居室」、独身寮では「寮室」、学校では「教室」など です。「複合建築」は、「1つの建物」の中に、上記のような 「用途が複数」配置されている建築のことです。「地階」は、 道路下からの水・電気・ガスなどのエネルギー供給と関係 しているので機械室が置かれます。「1階」は、前面道路 と関連した主玄関やサービス出入口、また、店舗などが置 かれます。「最上階」は、基準階と同じ機能が置かれたり、 ビル所有者の住居や展望レストランなどが置かれます。「塔 屋階」は、エレベーター機械室や給水や空調のための機械 室が置かれます。

2. 各階の平面を重ねて立体へ

この本では、「家具から発想する」の考えのもとに、「家具→ゾーン→室→平面→建築」の順で進めることをおすすめしています。各階の平面のスタディが終わり、それらの平面を下階から順に重ねていくと建築の全体像が見えてきます。建築づくりには、必ずクライアントがいて、要求条件として必要な室と面積を出されます。建築づくりの初期段階で「家具の種類、家具の数、ゾーンの規模、室の大きさ」を平面でチェックしておけば、建築デザイナーはその後の「形と空間づくり」に集中できます。

図表 3 地階・1 階・基準階・最上階・塔屋階 参考例 (オフィスビル)



図表 4 各階の平面を重ねて立体化する例

吹抜け型	ツインタワー型	門型	山 型
			1

生の資料

◇独立住宅(核家族用)

建物名:箱の家―| (東京都杉並区) 1995 竣工

建築面積: 68 m²

延床面積:119 m²

■家族数 夫婦+子ども3人

防平面図

1 階平面図 1/200

室名リスト

居間、和室、台所、納戸、

ホール、寝室、トイレ

子供就寝ゾーン

ゾーン

プレイゾーン

スパンと階高と天井高

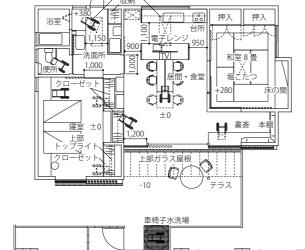
洗面所、脱衣所、風呂、トイレ、

玄関、子どもアルコーブ (1、2、3)、

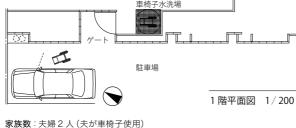
設計:難波和彦+界工作舎 構造:木造在来工法 規模:地上2階

 \Box

ーバルヨー



◇独立住宅(身障者用)

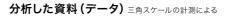


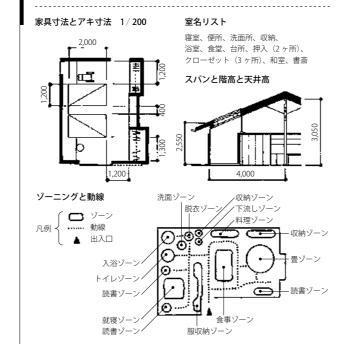
建物名:東川口の家(埼玉県川口市)

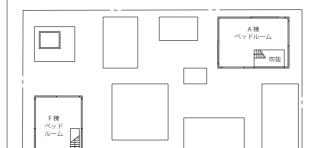
生の資料

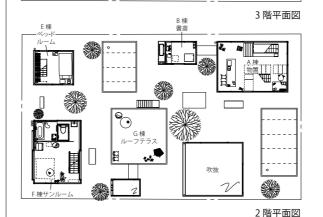
設計:工学院大学谷口研究室·LINK 建築工房、構造:木造 規模:平屋、建築面積:125 m²、延床面積:122 m²

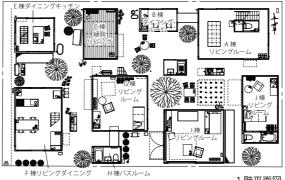




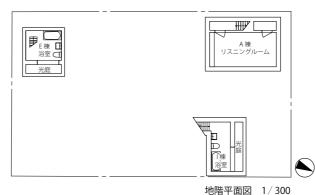






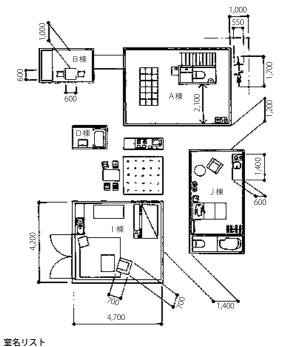


1 階平面図



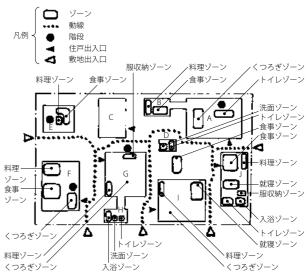
分析した資料 (データ) 三角スケールの計測による

家具寸法とアキ寸法 1/200



A 棟 (リビングルーム、トイレ、ベッドルーム)、B 棟 (ダイニングキッチン) C 棟 (縁側リ ビング)、D 棟 (バスルーム)、E 棟 (ダイニングキッチン、浴室、寝室)、F 棟 (リビングダ イニング、サンルーム、ベッドルーム)、G 棟 (リビングルーム)、H 棟 (浴室)、I 棟 (リビ ングルーム、浴室)、J棟(リビングルーム)

ゾーニングと動線



独立住宅・集合住宅-1

1. 事例の選択と分析

吹抜

居間

分析した資料 (データ) 三角スケールの計測による

家具寸法とアキ寸法 1/200

ゾーニングと動線

凡例

脱衣ゾーン

洗面ゾーン

28

(ゾーン

● 階段 ▲ 入口

トイレゾーン 団らんゾーン

独立住宅・集合住宅-3

2. 建築計画の知識と進め方

1. 発想は家具から

「住宅」の最も大切な室、すなわち「主役の室」といえば 「居間」です。もう1つ、寝殿造りの由来となっている「寝室」 も挙げていいでしょう。これらの室で使われている「家具 寸法」と「アキ寸法」を考えてから、「ゾーン」そして「室」 へと計画を進めていきます。「住宅家具」については、第1 章の「住宅には建築の基本がある」で述べているので、省 略します。ここでは、「家具の組合せ方」による「ゾーン構 成」の様々な可能性を挙げておきます。

図表 1 発想は家具から

食事をつくる

食べる

憩う

○食事をつくる

右図は「ワーク机組込み案」 です。キッチンの横に、ワー ク机 (パソコンも使える)を 組み込んでおくと、家族共有 の什事場(あるいはミニ書斎) をつくることができます。右 下図は「キッチン・スタディ 案」です。子どもが小学校か ら帰ると、子ども室より、親 のそばにある食卓で勉強する ほうが、成績がよくなると言 われています。

○食べる

右図は「ダイニングキッチン 案」です。台所にロングテー ブルを置くことで、食事、ホー ムパーティ、料理教室のほか、 子どもの勉強をみることがで きます。右下図は「リビング ダイニング案」です。ビッグ テーブルと呼ばれる正方形に 近い大きなテーブルは、食事 のほか、家族の団らん・子ど もの勉強・来客時の接客にも 使えます。

○憩う

右図は「リビングダイニング 案」です。先述の案と同じ ネーミングですが、こちらは、 1つの室に2種類の異なる家 具(食卓セット・ソファセッ ト) が置かれています。右下 図は「ファミリールーム=家 族室案」です。少々雑然とし ていますが、子どもが玩具で 遊んでいるそばで、両親はテ レビを見ながら会話を楽しん でいます。

○寝る

右図は「書斎組込み案」です。 夫婦のどちらかが寝ていて も、書斎の光が漏れないよう に本棚で区切ってあります。 右下図は「老いへの準備案」 です。いずれ人は高齢化しま すから、新築時に、寝るゾー ンに隣接して食事をつくる ゾーン・食べるゾーン・憩う ゾーンをつくっておく案です。

○子どもが育つ

右図は「兄妹で一緒に勉強 案」です。子どもが男の子と 女の子の場合、寝るところだ けは最小限のスペースでプラ イバシーを守り、勉強机は長 くして共同にしておく案です。 右下図は「屋根裏部屋探検案 です。建物内のどこかに秘密 の室があることは楽しい。ラ ビリンス (迷路) が子どもの冒 険心を養うことに期待します。

○衛生を保つ

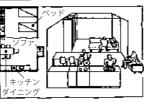
右図は「西欧スタイル案」で す。日本では一般に、便所、 洗面、風呂の3つのゾーンを 3 室に分けますが、これは一 緒になった案です。湯気が広 がらないように風呂と洗面の 間に透明ガラスを入れてあり ます。右下図は、「ちょっと温 泉気分案」です。外部に小さ な坪庭をつくってあります。

○植物が育つ

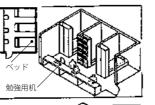
右図は「グリーンルーム案」 です。日本の住まいは庭とと もにあったといってもいいの ですが、狭い敷地では庭がと れません。ここでは、ガラス 屋根にして、上からの日照で 植物を育てます。右下図は農 業の栽培ハウスからヒントを 得た「巨大グリーンハウス案」 です。冬の日も、温室で花や 野菜と一緒に生活ができま

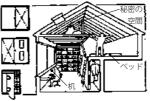
(参考:渡辺秀俊編『インテ リア計画の知識』彰国社)



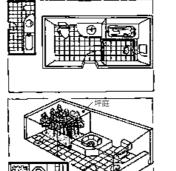


子どもが育つ

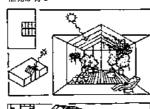


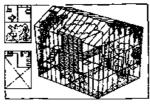


衛生を保つ



植物が育つ





2. 家族形態の多様化

独立住宅においても集合住宅においても、計画時には、 どのような「家族形態」でその住居が使用されるかを検討 しておかねばなりません。夫婦とその子どものみで構成さ れる家族を、最小単位の家族という意味で「核家族」と呼 んでいます。日本では、核家族とその夫婦のどちらかの両 親と住む「直系家族」がこれまで多く見られました。現代 は、それ以外の家族形態、例えば、「夫婦のみの世帯」「単 身者の世帯」「1人親と子どもの世帯」などが見られます。 最近では、さらに、複数の核家族が集まって住む「複合家 族」の形態も見られます。

3. ライフサイクル・ライフステージ

「ライフサイクル」とは、1つの生命体が出生してから死 亡するまでの発達過程のことをいい、人間では「乳児期・ 幼児期・学童期・青年期・壮年期・老年期」に分けられま す。「ライフステージ」とは、結婚後の「新婚期・育児期・ 教育期・排出期(子ども独立期)・老後期」へと移行してい く段階をいいます。住まいづくりでは、このようなライフサ イクルやライフステージの各段階に対応できるように「間取 りの可変性」を考慮しておきます。

4. 居住面積水準

国民に安全かつ安心な住宅を供給するための住宅政策と して、以前の「住宅建設五箇年計画」に代わって、現在は「住 生活基本法」があります。以前は大きな目標として建設戸 数がありましたが、現在は、住宅の長寿命化、省エネ化、 バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化などが大きな目 標になっています。目指すべき居住面積として、「住生活基 本計画(全国計画)」の中で示されている「居住面積水準」 を挙げておきます。

図表 2 居住而積水準

		世帯人数別の住戸専用面積 (m²)					
		単身	2人	3人	4人		
誘導居住面 積水準	一般型	55	75 (75)	100 (87.5)	125 (112.5)		
	都市居住型	40	55 (55)	75 (65)	95 (85)		
最低居住面積水準		25	30 (30)	40 (35)	50 (45)		

^()内は、3~5歳児が1名いる場合。

5. 住まいのゾーンと室名

どのような住まいにするか案を練っているとき、意識の 中で、「ゾーン」で練るか、あるいは、「室」で練るかで、建 築づくりは大きく変わってきます。いずれにしても、計画が 終わり、設計段階で正式な図面にするとき、平面図、内部 仕上げ表、展開図では、「1つの室」に対して「1つの室名」 が必要になります。その後の生活でも「室名」が必要です。 「室の命名」では、「1つのゾーンの室の室名」には苦労しま せんが、「複合ゾーンの室の室名」には、代表ゾーンの名前 でつけるか、新しい室名をつけるかで悩みます。いずれにし ても、室には室名が必要です。

6. 住まいの多様化

家族形態・ライフスタイル・ライフサイクルの多様化に対 して、独立住宅・集合住宅のいずれにおいても、「住まいの 多様化」が起こっています。住戸の型として、これまで使用 されてきた「nLDK型」のほか、新しい傾向の住戸型が出 現しています。幾つか例を挙げておきます。

○nLDK型

集合住宅の多様化が起こる 以前の住戸型の1つです。n は個室の数、Lはリビング、 Dはダイニング、Kはキッチン を表しています。

○オープン型

nLDK 型では室を細かく区切 る傾向にありましたが、オー プン型ではスライディングド アや可動家具による開放的な 室づくりが目標になります。 バス・トイレは、プライバ シー確保のため間仕切り壁と 扉が必要です。

○フリースペース付き型

住宅としての基本的な機能の ほかに、独立性が高く自由に 使える「フリースペース」が組 み込まれた型です。仕事や趣 味に使え、道路から認識でき て出入りできるようになって います。

○ディンクス型

新婚時を過ぎても子どものい ない共働き夫婦用の住戸のこ とです。老後の夫婦生活のた め、室数を増やすことなく、 様々な設備を充実させてつく る型です。

○SOHO型

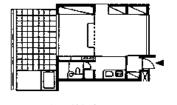
SOHOとは「スモールオフィ ス・ホームオフィス」の略で す。デザイン事務所など小さ な仕事場に使えるスペースを 備えた住戸型のことです。

図表3 住戸の型 1/300

2LDK の住戸(例:日本住宅公団〈現・ 都市再生機構〉の住戸)



オープン型(例:SQUARE)

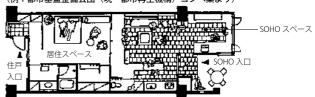


フリースペース付き型 (例:プロムナード多摩中央)



ディンクス型トイレ (例:住宅・都市整備公団〈現・都市再 牛機構〉の住戸)

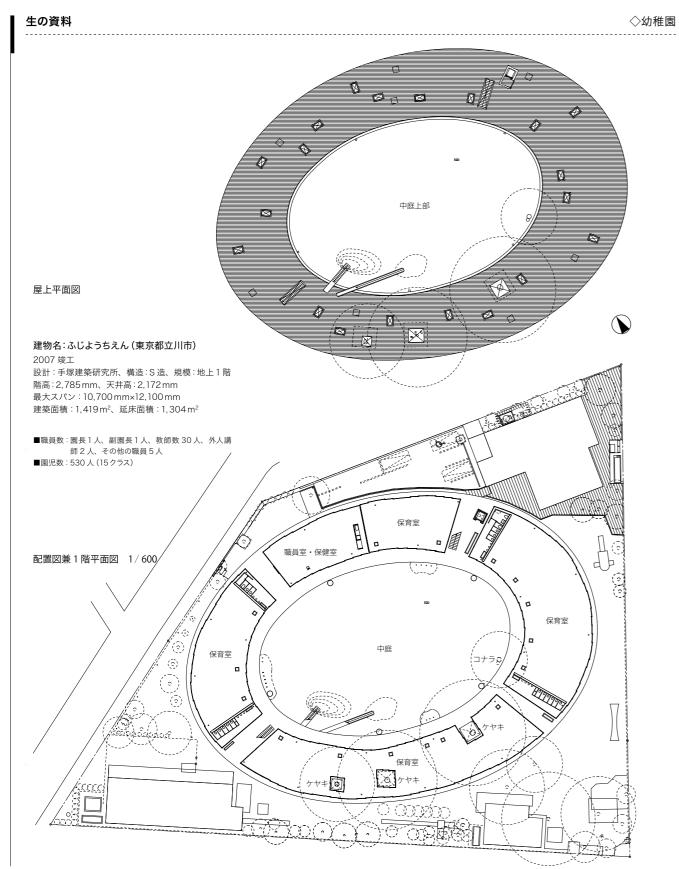
(例:都市基盤整備公団〈現・都市再生機構〉コンペ案より)

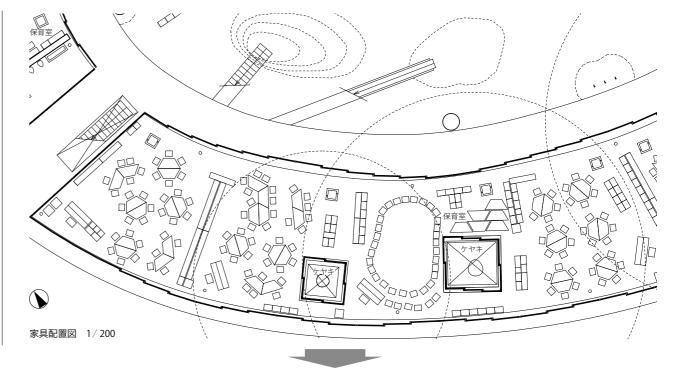


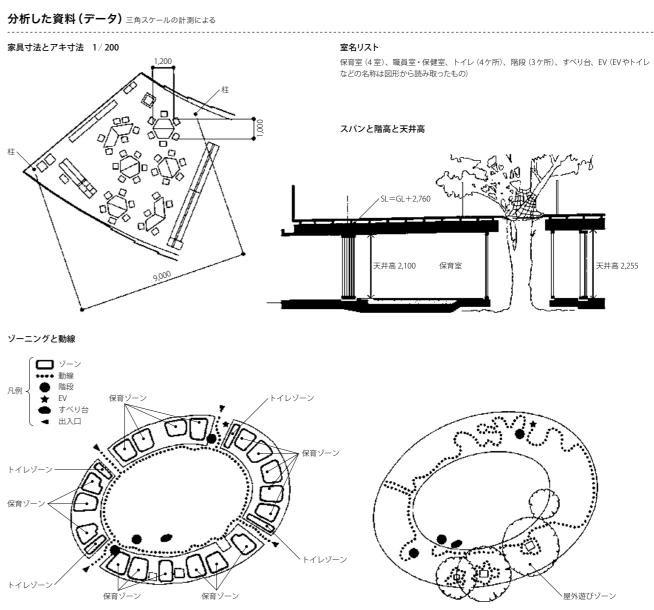
第2章 事例から学ぶ

16 幼稚園・保育所・認定こども園—1

1. 事例の選択と分析







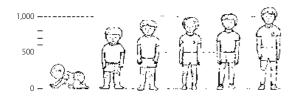
16 幼稚園・保育所・認定こども園—3

3. 発想は家具から

「幼稚園・保育所・認定こども園」の「主役の室」といえば「保育室」です。保育室に必要な「机・椅子・ロッカーの寸法」、そのまわりの「アキ寸法」を考えて「ゾーンの規模」を決め、建物全体へと計画を進めていきます。その前に、児童の身長変化を理解しておきます。

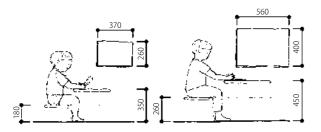
図表 2 身長変化と家具寸法 (出典:小川洋司「保育園・幼稚園の設計―その実例に即して」『建築設計資料 10』 建築資料研究社)

身長の変化

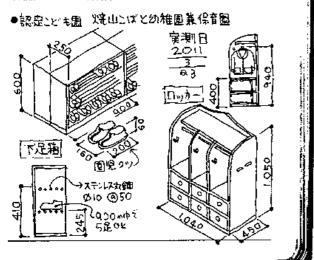


3 歳前後の机と椅子

4、5歳児の机と椅子



下足箱とロッカーの計測例



図表 3 児童とは(児童福祉法)

児童とは、満18歳に満たない者をいい、児童を次のように分ける。

(1)乳児 満1歳に満たない者

(2)幼児 満1歳から、小学校就学の始期に達するまでの者

(3)少年 小学校就学の始期から満18歳に達するまでの者

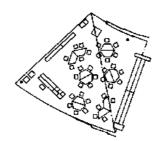
4. 保育室

「保育室」は、幼稚園・保育所・認定こども園のいずれにおいても、幼児の「生活の場」、そして、「教育の場」となります。また、遊びや学習を通じて「経験を増やしていく場」であり、同年齢の幼児たちとグループ行動することで「豊かな人間形成を養っていく場」ともなります。保育室の中にデン(くぼみ)やコーナーや棚があると「自発的な行為」をうながすと言われています。「採光と換気」を十分とり、「床は清潔」にしておきます。自由な行動がとれるように「屋内と屋外は連続」させておきます。非常災害時には「安全に避難」できるように避難通路やスロープを確保しておきます。保育室は、「1クラス」を「1室」にする方法と、「数クラス」を「複合ゾーンの室」にする方法があります。発想は、「家具→ゾーン→室→平面」の順で行っていくといいでしょう。

○保育ゾーンの面積

幼稚園では園舎全体の面積規定があり、保育所では幼児1人についての面積規定があります。認定こども園では両方の規定に準ずるとされています。右図の保育ゾーンの面積を計算すると、(5.0+8.6) ×7.8÷2=53.04㎡となります。

図表 4 保育ゾーンの大きさ (例: ふじようちえん 35人クラス) 1/300(三 角スケールで計測)



○静的遊び

静的遊びは、保育室の机と椅子を 使って行われます。折り紙や図画 工作、テレビや音楽の鑑賞、童話 などのお話、また、室内の隅やコー ナーや窓辺を使った金魚や小鳥の 観察などがあります。

○保育時間

幼稚園では4時間、保育所では8時間が標準とされています。認定こども園では、3歳以上の児童には、共通の教育・保育の4時間のあと、児童に応じて長時間保育を行うこともあります。

○年齢によるゾーン規模の 違い

保育室1人当たりの面積は、4、5 歳児学級より、3歳児学級のほう が大きくなります。理由は、高学 年では机に座っての静的遊びが多 く、逆に、低学年では身体を動か す動的遊びが多くなるからです。

○デン

デン (den) の訳には、野獣の住む穴、引きこもって仕事などする部屋、などがあります。 保育室や廊下の端や隅にあって、静的遊びや幼児同士の語らいの場となる「くぼみ」の空間のことです。

図表 5 保育室の1人当たりの面積 (児童福祉施設最低基準)

保育室の1人当たりの面積

1.98 m²以上

5. 乳児室・ほふく室

保育所や認定こども園では、乳児または満2歳に満たない幼児を入所させるため「乳児室」または「ほふく室」が必要です。乳幼児は、未発達で抵抗力が弱く、1日の約半分は寝ているため、年長児室とは分け、1階で日当たりと風通しのよい場所とします。床の仕上げは、足の指で蹴ってほふく前進するので、また、ウンチやおしっこをした場合の清潔保持のため、フローリングが適しています。窓は、外部が見えるように床近くまで下げ、外部に出られるようにしておきます。近くに、調乳・沐浴・汚物処理用の「水まわり」と「布団の収納場所」が必要です。認定こども園は、保育所に準ずる面積が必要です。乳児室とほふく室の面積規定がありますが、面積の大きいほふく室で必要人数分とっておくといいでしょう。

○ほふく室の面積

右事例の面積を、計測して計算すると、 $2.6 \times 2.2 + 5.6 \times 8.8 = 5.72 + 49.28 = 55.0 \text{ m}^2$ となります。必要面積は、乳児室とほふく室では違います。ここでは、ほふく室の必要面積で計算すると、15人なので、 $3.3 \text{ m}^2 \times 15$ 人 $=49.5 \text{ m}^2$ 以上必要となります。

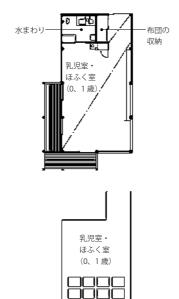
○水まわりゾーン

乳児室の近くには、調乳用の調理台・沐浴用のシンク・汚れものを処理するシンク・給湯機などを装備した水まわりゾーンが必要です。

○午睡用の布団

乳児は、1日の多くを寝て過 ごします。布団の寸法は、約 800mm×1,000mm。 収納 場所が必要です。

図表 6 ほふく室の面積 (例: 七井 保育園 0、1 歳児―15 人) 1/300(三角スケールで計 測)



図表7 乳児室とほふく室の1人当たりの面積(児童福祉施設最低基準)

2歳未満乳児室 ほふく室

1.65 m²/人以上 3.3 m²/人以上

6. 遊戲室

「遊戯室」は、「屋内での運動や遊戯」そして「集団行事」で用います。気をつけたいのは、年に1回の入園式や学芸会、数回の保護者会などの講堂機能を優先させないことです。遊戯室は、保育室と兼ねてもかまいませんが、一般には、「100m²程度の遊戯室」を保育室とは別に独立させてつくります。保育室の「静的遊び」に対して、遊戯室では「動的遊び」が行われます。遊戯室の中にデンやコーナーや段々のある場所をつくり、遊具を配置しておくと、自発的な行為をうながすと言われています。

○動的遊び

動的遊びは、主に遊戯室で行われ、追いかけっこなどの「鬼遊び」、ままごとやカゴメなどの「集団遊び」、滑り台や段ボールを使った「自由遊び」があります。

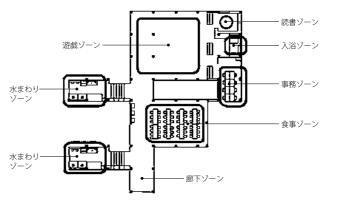
○雨天の場合の屋内運動場

晴天の場合は、運動場、あるいは、屋外遊戯場を使えますが、 雨天の場合は、遊戯室が屋外に 代わる遊び場となります。

○廊下とつながっている遊戯室

下図で、「遊戯ゾーン」の部分は「廊下ゾーン」とつながっていて、ひとつながりの「連続した空間」となっています。遊戯ゾーンの面積9.2×8.0=73.6 m²と、廊下ゾーンの面積2.8×13.4=37.52 m²を足すと、111.12 m²になり、遊戯室の標準サイズ100 m²に近い面積になります。全体として、空間の曲がりやくぼみのある「複合ゾーンの室」になっています(三角スケールで計測)。

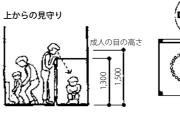
図表 8 廊下とつながっている遊戯室 (例:七井保育園)



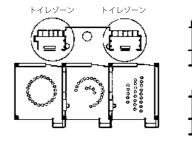
○水まわりを保育室近くに置く

トイレと手洗い (工作用にも使える) を、保育室の近くに配置します。トイレは、保育室に隣接して置く場合と、廊下に一度出たところに置く場合があります。 大便器の囲いと扉の高さは1,100mm前後とし、教諭や保育士が、上から見守りができるようにしておきます。

図表 9 水まわり



廊下型(例:いずみ幼稚園)



隣接型(例:七井保育園)

